

栄光

説 教

『わたしの母、わたしの兄弟』

イザヤ書41章8節〜14節
マルコによる福音書3章20節〜35節

狩野進之佑

説教……………	1
特集・私を元気にさせること……………	2
新成人おめでとう!……………	5
東京神学大学教職セミナー報告……………	5
クリスマス諸集会報告……………	6
西南支区新年礼拝報告……………	6
伝道師の書き込み……………	7
牧師の書斎から……………	7
長老のファイル……………	8

主イエスの元にたくさんの方が集まっています。このとき集ま

聖霊の働きでもあるのですが―をバカにして、悪霊の頭に取りつか

たのは、主イエスの話を喜んで聞
きに来た人ばかりではありません
。そこには主イエスをやっつけ
てしまおうとして、エルサレムか
ら来た律法学者たちが居ました。
それに加えて、主イエスの身内の
人たちもやってきます。この身内
の人たちは主イエスを取り押さえ
に来たのです。自分の息子、兄で
あるイエスが人々に怪しいことを
吹き込んでいると聞いて、なんと
かしてこの活動を止めなければな
らないと思つてやってきましたの
です。

聖霊の働きでもありますが―をバカにして、悪霊の頭に取りつか
れていると言ひ放ちます。主イエ
スの肉親たちもまた、主イエスの
内に働く聖霊を認めません。私の
息子、兄であるイエスなら必要だ
が、救い主イエスは要らない、そ
ういう人たちです。主イエスのう
ちに働く聖霊を、汚れた霊だと言
っている人たちの言葉を真に受け
て、取り押さえに来たのです。

ここで人々がいかに主イエスに
働く霊をバカにする、「聖霊を冒
読する者」であつたかが明らかに
なっています。律法学者たちは、
主イエスの働き―それはすなわち

律法学者たちのような権威者た
ちからも、そして肉親たちからも、
イエス・キリストは要らない者と
されました。その内に働く聖霊は
汚れた霊と馬鹿にされ、主イエス
の活動は否定されました。そのよ
うな中であつて、主イエスを受け
入れ、その内に働く聖霊の働きを
認める人々。それが主イエスのも

とに集まり、家じゅうを満たした
群衆でありました。主イエスは彼
らを見渡して仰いました。「見な
さい。ここにわたしの母、わたし
の兄弟がいる」。主イエスを囲み、
御言葉を聞くこととする私たちもま
た、この群衆と同じです。主イエ
スを救い主と信じる私たちのこと
を、主イエスは、家族と呼んでく
ださいます。こうして破格の扱い
が私たちに与えられます。

この群衆、そして私たちはこの
ように呼ばれるにふさわしいもの
でしょうか。そうではないと、私
は思うのです。本当に「神の御心
を行う人こそ、わたしの兄弟、姉
妹、また母」だとするならば、誰
一人として主イエスの家族はお
りません。私たち誰もが神様の御心
など行えないからです。うんざり
するほどに、私たちはいつも罪を
犯して、神の御心に沿わない生き
方をしています。私たちは礼拝に
おいて確かに聖霊を受けて出てい
きます。けれども、この与えられ
た聖霊にふさわしく生きられませ
ん。聖霊をバカにしたような生き
方をし続けます。赦されない「聖
霊を冒読する者」。それが私たち

の姿ではないでしょうか。

私たちの現実がそうであるにも
かかわらず、主イエスは私たちを
神の家族へと招いてくださいま
す。それは、ほかならぬ主イエス
ご自身が、この赦されない罪の現
実、「聖霊を冒読する者」たちの
罪を贖ってくださった、代わりに
負ってくださったからでありま
す。私たちに代わって十字架にか
かり、命を捨て、この永遠に赦さ
れない、罪の責めを代りに負って
くださったからであります。だか
ら、私たちは現実においては、私
たちの弱さのために、悔しいこと
に、聖霊をバカにする者であつた
としても、畏れることなく、この
お方の家族として、安心して身を
置くことができます。救い主とし
て主イエスを受け入れ、この方に
働く聖霊の御業を信じるもの。私
たちの弱さという現実よりも、こ
の救い主の手の力をこそ信じるも
の。この手に引かれて、神の家族
として歩むもの。それこそが主イ
エスを長男とし、主なる神を父と
し、互いを兄弟姉妹と呼び合う、
私たち神の家族、教会の姿なので
あります。

私を元気にさせること

くよくよしたり、落ち込むことは誰にでもよくあること。

でもその時の対処法は、人それぞれでしょう。

まずはお祈りしてみる。でもすぐには答えが出ないことも。

友達とのおしゃべり、美味しいものを食べる…。

礼拝に出席してリセット、これが一番でしょうか。



毎日の生活の中で

宇田川雅子

悩み、問題が起きるとまず祈ります。

しかしすぐに神様が解決してくださるとは限りませんので、毎日しつこく祈り続けます。その間は、もやもやした気分が過ぎすことになりませんが、祈ることにより、とても安心します。

毎日疲れ果てて仕事から帰宅すると、2年前に飼いだめた猫たちが迎えてくれます。2匹とも近くのエルターからもらってきた保護猫たちです。1匹は福島県の帰宅難区域で保護された成猫で、もう1匹は、千葉県の駐車場に生後数週間で捨てられていた8ヶ月の仔猫です。2匹の世話をするのは大変なこともあります。毎日顔を見ながら声をかけて、なでているだけで、心がとても穏やかになります。

さらに私を元気にさせることは、この原稿を書き始めて初めて

気が付いたのですが、自分の担任
している生徒たちの顔を見ること
です。現在私は高校2年生の担任
をしています。数名の男子たち
は17歳とは思えないほど幼稚でヤ
ンチャです。礼拝やショートホー
ムルームなどで「しゃべらない」
「座りなさい」と注意しない日は
ありません。毎日辟易して、休み
に入ると「これ幸い」と思ってい
ました。が、冬休みを経て、3学
期になって生徒たちの顔を見る
と、なんだかこのかまびすしい生
徒たちの担任することによって
実は元気をもらっていることに気
づいたのです（もちろん生徒たち
には言っていない）。信じられ
ないことですが、これこそ神様の
恵みが想像もつかない形で現れた
のでしょうか。

せわしない毎日を過ごしていますが、このように、神様に悩みをゆだね、生徒たちや飼い猫たちと関わることにより、日々元気をもらっています。

私を元気にさせること

岡山いち

今回は「私を元気にさせること」がテーマです。もともと元氣だけが取り柄のような私でしたから、元氣をなくすことはあまり覚えがありません。

恵まれた家庭で育てられ、結婚してあたたかな家庭を築き、毎日が充実して幸せそのものでした。ところが30年程前、突然夫が肺がんを発症したのです。まさか我が身がこのような出来事に見舞われるとも思っていませんでした。夫は再び健康をとり戻しました。しかし2年後の秋、肝臓に転移し、私たちは前回以上に落ち込み、どん底につき落とされました。その時「教会に行ってみましょう」と夫を誘いました。私は生家の隣がバプテストの教会で、幼稚科からジュニアクラスまで毎週礼拝を守っていましたから懐かしい感じが

初めて教会の門をくぐりましたので、とても新鮮な気持ちでした。やがてクリスマスを迎え

イヴ礼拝で「星を動かす少女」という岸先生のお説教を伺い、私たちのことなど気にかけてくれる人が無くても神様は私たちのことを覚えていてくださるということを教えられ、救われた想いに元氣を頂きました。結局それから半年後に主人は召されましたが、亡くなる日の払暁「洗礼を受けたい」と自ら大きな声で宣言し、四竈揚先生から病床洗礼を授かり、家族揃って讃美歌312番「いつくしみ深き」を歌いました。この受洗の恵みがありましたので、その後何とか元氣に生きてこられました。

あれから多くの年月が流れ「元氣印のいちさん」も73才となり、すっかりくたびれ果てました。電車の窓に映る老婆は誰かと思えば紛れもない自分でガツクリです。年令に比べてハードな日々を過ごしてきた結果なのですが、そんな私が今元氣になれるのは、時折娘と共に美味しいお料理とワインを堪能しながらたわいもないおしゃべりをするひとときでしょうか。

より元氣に

角田 晋

もうすぐ喜寿になろうとする現在、健康を支えられ、元氣で働けることは、感謝以外のなにものでもない。

この元氣さを盛り立ててくれるものとして、多くの趣味がある。スキーや登山や高山植物の写真を撮ることなど、この年になると簡単にできないものがあり、残るのは音楽鑑賞や読書等である。

音楽鑑賞は、10代のころから、SPレコードを父の影響で聴いており、大学時代には夏休みに全レコードをテープに録音しながら聴いたこともある。そのころからコンサート、LP、FM放送からテープへの録音等によって鑑賞し、その後CDへと変化してきたが、最近では小さなウォークマンがあり、FM放送やCDから録音していろいろな曲を聴くことが出来る。より元氣にさせるのは、バッハやベートーヴェンの曲である。ベートーヴェンはSP時代からよく聴いていたが、バッハとの出会いはレコード等も少なかったこともあり、マタイ受難曲を聴いてからと遅かったと思う。それからバッハのCDやバッハ関連の書籍の収集が始まった。今では、CDの棚は3分の2以上はバッハとベートーヴェンで占められている。

次に読書であるが、通勤の電車の中で読書をしなくなり、量は減っている。現在はキリスト教関係の本を読むことが多い。あまりにも難しそうなのは敬遠している。昨年は旧約聖書関係の本を求めることが多かったが、『老いて聖書に聴く』は老いてくるものとして元氣を与えられる。

最大の元氣の源は、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」とのパウロの言葉を胸に、十字架のキリストを見上げ、神の恵みによって生かされていることを感謝して過ごすことである。

どんな時に元気が出るか？

桜岡民枝

どんな時に元気が出るか？

作品展会場で、自分が作った作品に感激して喜んでお買い上げくださるお客様に出会った時が一番うれしく、元気が出る。

過去30年以上、年間200枚以上の作品を作ってきた。編む前に染色、紡ぎの作業がある。全ての作業が大好き、元気が出る。

年間5、6回の海外旅行でイメージを膨らませ、夏の富良野滞在でイメージをまとめ、週3、4回のスポーツジムで体力作り。2人のトレーナーとのレッスンは心おどる。

月に4、5本の映画をみて心ふるわせる。新宿武蔵野館に毎週通う。

台所に立つこと、テレビでのスポーツ観戦。LINEで多くの友達と写真を送り、たわいないおしゃべりするのも楽しく、元気の素。最近では孫2人との時間も大切な

時。2人が料理に興味を持ち、パン作り、ケーキ作り、野菜を切り、最近ではガス台の前に立って炒めることを始めた。

家に居る時は常に染色。想いのままに、ウール、シルクを大鍋で染める。朝、4時に起床した時すぐにガスに火をつけた。しばらくして電話が鳴る。「先程からガスが出ていますのですが、どうしましたか？」との問い合わせ。

「ハイ、台所で火を使っていますので」。

朝4時から長い時間、ガス台を使うことはめずらしいのかもしれない。染めたウールを心のおもむくままに混ぜる。紡ぐ。多くのオリジナルな毛糸の誕生。それらとシルクの糸を絵具のように使用。心おどらせながら作品を作ってきた。

たかがセーター。

されどセーター。

34年以上続けて来た製作。沢山の方々に出会い、作品をお嫁にもらっていた。

全てのことが私を元気にさせてくれる。

笑顔が一番

圓山芳則

子どもの頃から気が小さく「気にしない」でいつもよくよくよしているような性格でした。それは、還暦を過ぎても治りません。というより、ますますひどくなります。

そんなときには、身体を動かして汗を流し、ビールをクイーンと…なんていうのがいいのでしようが、若い頃、トランペットに明け暮れ、運動をしなかったため、運動には縁がなく、薦められても「やめておきます」といつてしまう状態。おまけに、ビールは好きですが、片頭痛がひどく飲めない現状で、筋書き通りにはいきません。

さて、僕の元気を取り戻すことは何かと考えてみると、やっぱり「子どもの笑顔」と「妻の笑顔」だと思っていた。

学校の先生をしていて一番嬉しいのは「先生、できたよ」「先生、わかった」という子どもの笑顔です。「それを唯一の喜びに、先生

という職業の人は生きている」と言っても過言ではないと思います。教材を準備しながら、「これなら子どもたちは『わかった』と言うだろう」と期待をふくらませて授業をし、思い通り「わかった」と子どもたちの顔が輝いたときは、何とも言えない充実感があります。今の時代、教育の世界は厳しく、精神的、肉体的に相当ハードですが、乗り越えていけるのは、子どもの「笑顔」です。

もう一つは、妻の「笑顔」です。僕は料理が好きで、よく料理を作ります。最近では、時間があるので、食事を作ることが増えました。「気持ちいい」の僕が「美味しくできたかな」とドキドキしていると、妻は「美味しい」「美味しい」と言いつて食べてくれます。若い頃は気にしませんでした。が、「美味しい」「美味しい」と言いつて食べることは、とても大事です。料理を美味しくするし、作った人も食べる人も幸せにしてくれます。心からの「美味しい」が大事です。みなさん。「美味しい」の一言、言っていますか。

新成人おめでとぅ!

新成人となつて

柴田裕実子

先日は成人祝福式のお祝いをしてくださり、ありがとうございます。幼い頃からお世話になっていた教会で、成人のご報告ができたことを幸いに思います。また、20年間一緒に歩み、支えてくれた祖父母や両親、たくさんの方に感謝をしています。

思い返せば20年間多くの人に支えられてここまで歩んでくることができました。「やりたいことはたくさん挑戦しなさい」と、いつも背中を押して応援してくれる両親、私も頑張らなければと感じさせてくれる弟や、父親の転勤で海外に家族が行くことが決まった際に、日本に残って高校生活を送りたいという私の意見を聞き入れ、毎日ご飯やお弁当を作ってくれた祖母、どんなに家に帰る時間が遅くなっても起きて待っていてくれた祖父など、ここでは挙げきれないくらいたくさんの方が私の側にいて寄り添い、支えてくれたおかげで、ここまで歩んでこられま

した。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

成人という人生の中の一つの節目を迎えましたが、正直あまり実感はありません。しかし、これからは責任を伴う行動を取ることがより一層増え、また、両親に甘え生きていくことはできなくなると思います。今までたくさんの方に支えられここまでくることができた分、今度は私が感謝の気持ちを忘れず、人を支えることができる人間になりたいと思っています。社会的にみれば20歳というまだ未熟な歳ですが、大学でしっかりと勉強と部活動の両立をし、社会人になる準備をしていきたいです。また、これから先も続いていく人生を一步ずつ後悔のないように歩んでいきます。

東京神学大学

教職セミナー報告

1月7日(火)～9日(木)までお時間を頂いて、東京神学大学主催の教職セミナーに参加して参りました。北は札幌から南は九州まで、講師等を含め110名程の参加者がありました。経堂北教会と関係の深いところでは、先々代の伝道師であります久保哲哉先生、現在上野教会で働いておられる種房正勝先生、惇子先生、神学生として松浦子基兄もこの会に参加しておられました。

「贖罪論と教会」という題で講演とシンポジウム、分団に分かれての話し合いの時間が持たれました。贖罪論という言葉はあまり馴染みのない言葉かと思えます。これは主イエスが十字架につけられて死んだことについて、そこで何が起きたのかを語るものです。主イエスが十字架につけられることで、どうして、またどのようにして私たち人間の罪、神に対する私たちの罪が取り去られたのかを問うものです。

実はこのことについて、聖書の

中に唯一の明確な答えがあるわけではありません。人間の言葉では簡単に説明がつかない。だから、聖書は様々なイメージや言葉を使って説明しようとしています。「身代金」、「犠牲の羊」、「悪魔に対する勝利」、そういった様々な言い方で表現します。けれども、伝道をするためには、答えを一つとは言わずとも、ある程度絞らなければならぬ。教会は歴史の中で聖書の色々な表現を総合してまとめていると思います。その結果生まれたのが「贖罪論」という神学の一分野ということになりました。

今回の『栄光』の冒頭に1月の説教を載せておりますが、この説教の準備期間中に教職セミナーがありました。セミナー前の準備段階では特段罪について語る気は無かったのですが、気がついたら紙幅の半分くらいは罪の問題に。自分でも意外ですが、影響を受けやすい人間だったのかもしれない。居眠りせずに聞いていた、と好意的に受け取っていただけだと幸いです。

(狩野進之佑)

クリスマス諸集会報告

素敵なクリスマスリースとクラ
ンツの飾りつけ、幼子を抱くマリ
ア様の描かれたポスターで始まっ
たアドベント。

愛餐会は多くの方の協力を得て
スムーズに準備完了。食事は高齢
の方にも食べやすい物の用意を心
掛けました。ケーキ、みかんなど
の献品に心も満たされました。祝
会まで少々時間が余りましたが、
準備が整うまでのお楽しみ時間と
してご歓談いただきました。

太友太郎兄の司会で始まった祝
会。CSの『ジャイブ旧新約聖書』
はかわいい子どもたちと先生方の
熱いダンス。そして何より狩野フ
レディの登壇に会場は大盛り上が
り。新たな一面を見せていただき
ました。青年会の劇『もう一人の
博士』。脚本は諸橋鷹広兄、役者
の個性が活かされた笑いあふれる
温かい劇を楽しみました。ハンド
ベルと歌は綱川めぐみ姉の好リ
ドのもと、経堂北教会の音楽力の
高さが発揮され、あつという間に
グロリアの合唱が歌えるように
なり感激。ハンドベルも加わって

大合唱になりました。恒例のビン
ゴの後は今年はなんとスウェーデ
ンからの陽気でやさしいサンタさ
ん。たくさんの方々の奉仕とクリ
スマスへの温かい思いのおかげで
和やかな楽しい祝会になりました。

イブ礼拝はキャンドルに照らさ
れ聖書朗読に耳を傾け、み言葉を
聞き、喜びのうちに歌う讃美歌、
ハレルヤコーラス。真のクリスマ
ス・救い主のご降誕を祝うことが
出来た喜びに満たされました。久
しぶりの平日イブ。夜7時始まり
だったので、用意したサンドイツ
チ、シュトレン、献品のから揚げ
はすべて売り切れでした。お菓
子やリングも頂きました。補助椅
子を出すタイミングなどが難しか
ったので、来年はぜひ前の方から
の着席をお願いいたします。

キャロリングも28人参加で6軒
のお宅に訪問し、楽しかった模様
です。大人数になったら2手に分
かれることが提案されました。
全てのクリスマス諸集会が主の
ご降誕の喜びを皆で分かち合っ
て、恵みに満ちた交わりのうちに終わ
ることが出来たことを心から感謝
します。

(小嶋幸子)

西南支区新年礼拝報告

西南支区新年礼拝は、1月1日
午後、渋谷教会で行われた。司式
は平野克己牧師(代田教会)、説
教者は常任委員会の希望により、
韓国出身の白正煥牧師(用賀教会)
であった。『開かれた目に見えた
もの』(マルコ10・46〜52)と題
して、イエスと出会った盲人バル
ティマイについて語られた。彼が
願って、イエスによって開かれた
目で見たものは何だったのか。現
実の世界だったのか。現実を超え
て、イエスの十字架による受難と
救いを見たのではないか。彼は、
「立つて」、「歩みだした」、「立つ」
は原語で復活するの意味。「行き
なさい」は「新しい人間になりな
さい」の意味。「歩む」は主イエ
スの道(十字架の受難)を歩むこ
とだったのだ。バルティマイは信
仰の目を開かれ、自分の道を捨て、
イエスの道を選んだ。マルコの初
代教会で彼は有名な人であったと
の伝承がある。

説教の中で、白牧師は「人は、地
上では人と人の間に線を引く。し
かし、神の国では、線はない」との

及川信元支区長の言葉を語られ
た。また、キリスト者の国籍は天
にあることを思い、30年間日本で
牧師を続けていると述べられた。
つづいて、藤村和義牧師(渋谷
教会)により聖餐式が行われた。

席上献金は、284,661円
で、にじのいえ信愛荘、三宅島伝
道所支援委員会、台風19号豪雨緊
急救援募金(教団社会委員会)に
送られる。礼拝には、335名(昨
年283名)の方が出席された。
信仰を新たにされ、年初めに相
応しい礼拝を捧げることが出来た。
支区伝道担当では準備におい
て、チラシの発送、プログラム作
成で狩野進之佑先生に大変お世話
になりました。

(松田昭彦)



伝道師の書き込み

1月1日に西南支区の新年礼拝に行きました。神学校時代も併せると通算で9年ほどは西南支区の教会にお世話になっているのですが、出席は7年ぶりになるかと思えます。今年から西南支区伝道部のお手伝いをさせていただいて、新年礼拝の準備に関わっておりまして、久しぶりに参加させていただいた次第です。以前お世話になった教会の方々とも久々に顔を

合わせる機会となりました。離れていても祈りに覚えていくくださる方がいるというのは改めて心強いものだと感じさせられます。

新年礼拝では聖餐式も行われました。会場である渋谷教会のやり方に従って執行されました。渋谷教会はメソジストの伝統を持つ教会で、現在も説教壇の前にひざまずいて聖餐に与るための場所が用意されています。神学生時代の出席教会はメソジストでしたので、前に進み出て聖餐をいただくこの形式は久しぶり、そして自分が一番

よく与った聖餐の形式です。善し悪しはともかく、自分のよく知る形式というものは身に馴染むものです。ただこの形式はひざまずくのがしんどいですし、陪餐者の人数が多い場合とはすこぶる相性が悪く、非常に長丁場な聖餐式となりました。なかなか終わらない聖餐式を眺めながら、心に馴染むことなく、変化させた方が良いのではないかと感じることも、どう折り合いをつけていくのが良いものかとぼんやり考えておりました。

報告を書かせていただいたとお

り、先月は東京神学大学のセミナーに参加していました。分団に分かれた話合いの中で、ある先生が礼拝の順序の中に、罪の告白の言葉を加えたことについて話しておられました。礼拝の形をひとつ変えるのにも大きな苦勞があったとのことでした。心に馴染む形と、より理想的な形。自分の今後の歩みの中で、どうしてもそれが問題になる日がいつか来るのだろうか。答えはまだないのですが、そんなことを考えさせられた1月でした。

(狩野進之佑)

牧師の書斎から



1月6日に宇佐見和彦さんが、7日には中瀬古芳江さんが天に召されました。日曜日を挟んで、11日と13日にそれぞれ葬儀を行いました。ご遺族は家族葬と言われま

したが、教会で行う葬儀ですから特に教会員にはその旨をお知らせしませんでした。それぞれ用意した式次第を急いで増刷するほど教会員が出席してくれたことは嬉しいことでした。御言葉はもちろん

ですが、改めて故人の愛唱讃美歌で見送ることができたのは、ご遺族にとっても、出席した私たちにとっても慰めとなりました。この讃美歌を歌うたびにお二人を思い出し、讃美歌にまつわるそれぞれの思い出が甦ることでしょう。

18日には結婚式がありました。新婦のご家族がバラの栽培農家ということで、見事な沢山のバラで教会が飾られました。新郎のご家族は教会員で、その葬儀を教会で行いました。それで結婚式はこの教会で挙げたいとのことでした。

「雪まじりの寒い結婚式となったから一生の思い出となる」とは親族の一人の言葉でした。ご家族にとって、教会が悲しい思い出の場所とともに、喜びの思い出の場所となったことは、まことに神の恵みです。主の御名によって二人、または三人が集う教会は、人生の節目となる時、とても大切な場所だと改めて心に刻みました。二人の新しい出発を主が祝福してくださるようにと心から祈ります。

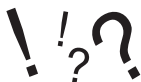
葬儀に挟まれた日曜日、礼拝後に成人祝福式を行うことができました。

した。今年は2、3日前まで出席者ゼロと連絡がきていただけに、教会員のお孫さんでCS出身の新人成人が出席してくれたことはとても嬉しいことでした。ご家族の愛情はもちろん、育ててくださったのは主なる神と感慨一入でした。

なかなか大変だった日々、とてもよくやったとは思えませんが、祈りに支えられ、御言葉に励まされ、恵みを数えることができることは有難いことです。信じて生きる日々は、祝福された日々です。

(岸 俊彦)

個人消息



長老のファイル

長老会では集会報告、つまり礼拝などの出席人数が毎回報告されます。また、来会者、つまり教会員以外の人についての報告もあります。11月は召天者記念礼拝、12月はクリスマスがあるので、この時期は来会者の人数も増えます。12月の来会者は85人でした。私の家族3人もこの人数に含まれます。あまり教会に来なくなった私の家族ですが、「クリスマスは教

会へ」となります。

減少傾向にあった礼拝出席は、ここ数年はあまり変わりません。召天された方もある一方、たくさんの方が転会や転入会で私たちの群に加わってくれたことからです。その結果、経堂北教会の現住陪餐会員の数は200人のラインを切ったり超えたりしています。超えると西南支区の総会へ出す議員が3人となり、切れば2人です。これは長老会にとってはわりと大きな問題です。

ところで、この200人という数はどうなのでしょう。ざっくり言えば「大きい教会」のひとつといえるでしょう。教団の教勢報告から計算すると現住陪餐会員の平均は約47人（2018年度）です。当教会は平均の4倍以上ということになります。色々な教会がありますから一概には言えませんが、減ってきたと感じても教団の中では大きい方ということになります。しかしながら、今年度の受洗者数はまだ0人です。教団の報告から計算しますと受洗者数平均は0.64人（2018年度）。

当然ながら0人だと平均以下、1人受洗者が与えられれば平均越えということになります。

教会員の家族で未受洗ながら教会に通う方の受洗を待ち望むのももちろんです。思い浮かぶ顔は何人もいます。祈りに覚えましょう。教会員関係以外の来会者もいます。それらの人たちのためにも祈りましょう。また、どうすれば地域の方を招くことができるかも考え、知恵を出していきたいものです。「共に伝えよう」の思いをもつて励んでいきましょう。（綱川）

掲示板



○教団宣教方策会議 2月24日（月）～25日（火）
於 富士見町教会

○西南支区伝道フォーラム
2月24日（月）午後1:30 於 鳥居坂教会

○レントに入る 2月26日（水）

編集後記



▽寒い日々が続いていますが、皆さんの原稿を読んで元気をいただきました！（沢田）

「栄 光」2020 年 2 月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧 師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
編 集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp